

令和7年第3回中津川市教育委員会（定例会）議事録

日 時 令和7年3月5日（水） 午後1時30分～

場 所 にぎわいプラザ 4-1 会議室

出席委員 教育長 岩久 義和
委 員 田島 雅子 三尾 和樹 橋本 あみる 山本 亮

事務職員 三宅事務局長・花田教育次長（兼）学校教育課長・森事務局次長・松井文化スポーツ部長・吉村文化スポーツ部次長（兼）鉱物博物館長（兼）東山魁夷心の旅路館長・伊藤教育企画課長（兼）施設計画推進室長・松原教育研修所長・安江幼児教育課長・青木発達支援センターつくしんぼ所長（兼）発達支援センターどんぐり所長・園原阿木高等学校事務長・渡邊文化スポーツ部対策官・青木生涯学習スポーツ課長（兼）少年センター所長・小池文化振興課長（兼）市史編さん室長・草野図書館長（兼）蛭川済美図書館長・高井中央公民館長、大瀧教育支援専門員

会議日程 1 開 会
2 前回議事録の承認
3 教 育 長 報 告
4 議 事
5 閉 会

日程	議 事	件 名	結 果
第1	議第4号	令和7年度県費負担教職員の任免等の内申について	承 認
第2	議第5号	中津川市教員住宅管理規則の一部改正について	承 認
第3	議第6号	中津川市立小中学校管理規則及び中津川市立高等学校管理規則の一部改正について	承 認
第4	議第7号	令和7年度中津川市教育委員会の方針と重点について	承 認

■教育長 本日は4名の委員の出席を確認しましたので、ただいまから令和7年第3回中津川市教育委員会定例会を始めます。

本日、提案する議題について事務局から説明します。

森事務局次長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■教育長 まず、本日の議事進行についてお諮りします。ただいま事務局次長から説明がありましたように、別綴りとなります議第8号については、個人が特定される恐れがあるため、関係法令の規定により、秘密会として行いたいと思います。従って、議第4号から議第7号までの審議を終えた後に暫時休憩を取ります。その休憩中に協議会を行います。

協議会の終了後に、学校教育課、阿木高校の説明員は残り、それ以外の説明員は退席して、秘密会として議第8号を審議したいと思います。また、この議事を説明するため、臨時説明員として学校教育課の大瀧教育支援専門員を出席させたいと思います。

委員の皆様、ご異議ございませんでしょうか。

〔異議なし〕

■教育長 異議なしとのことですので、本日の議事はただいま説明した通り進行いたします。

日程第2、前回議事録の承認につきましては、回議といたします。

日程第3、教育長報告を行います。前回以降の出席行事等を中心に報告します。

2月16日は郷土かるた競技大会に出席しました。市内各小学校から1チーム3名、計30チームが参加してくれました。勝敗だけでなく、競技を通してふるさとの自然、歴史、味覚や人などを学ぶ貴重な機会になっていました。

18日は職員組合幼児教育部会の皆さんとの懇談会に出席しました。昨年度同様、仕事を終えた後の会議であるにもかかわらず、たくさんの職員が集まってくれました。会場の雰囲気もととても柔らかく良いものでした。保育士の皆さんが抱えている不安や教育委員会への期待などに直接答えられる大切な機会です。今後も継続するとともに、やり方については、もっと楽に話せる場が持てるよう改善を提案していきたいと思っています。

20日は今年度2回目の中津川市博物館等協議会に出席しました。毎回鉱物博物

館での開催が慣例となっていました。今回は遠山史料館を会場とし、委員の皆さんに常設展などもご覧いただきました。26日は市議会3月定例会に、26日は東濃地区教育長会に出席しました。

3月1日は阿木高校の卒業式でした。卒業を迎えた生徒はわずか17名でしたが、人生の新しい一步を踏み出そうとする若者の爽やかさが感じられる卒業証書授与式でした。3日は今年度最後の校長会でした。学校を取り巻く様々な環境が厳しさを増す中で奮闘してくれている校長先生方に、感謝の気持ちを伝えました。

続いて今後の主な行事です。

6日と10日は市議会一般質問に出席します。7日は中学校で卒業式が行われます。私は校長先生が役職定年を迎える付知中学校の式に臨席します。委員の皆様にも教育委員会告示をしていただきます。よろしくお願いします。11日は教頭会に、12日は文教民生委員会と中津川市防災会議に、14日は下呂特別支援学校の卒業式に、18日は恵那特別支援学校の卒業式に、19日は予算決算委員会にそれぞれ出席予定です。

24日は小学校の卒業式が挙行されます。私は蛭川小学校の卒業式に臨席します。委員の皆さんにもご足労お願いします。なお、24日は臨時会を予定しています。忙しい年度末に申し訳ございませんが、ご出席のほどよろしくお願い致します。

私からは以上です。

次に、教育委員会事務局及び文化スポーツ部から報告します。

三宅事務局長。

■事務局長 前回以降の主な出席行事について報告します。

2月17日に教育評価委員会、18日に青少年健全育成推進市民会議・安全安心まちづくり市民会議の合同会議と、末松先生とのWEB打合せ、19日に三役部長会、21日に定例記者会見に出席しました。26日に東濃信用金庫様からの寄附受領式、これは南小・東小のAED購入への助成です。3月1日に蘇南高等学校の卒業証書授与式、3日に校長会、4日に園長会に出席しました。

また、3月市議会につきましては、2月25日に本会議初日、26日に一般質問の締め切り、今後は、3月6日と10日に一般質問、12日に文教民生委員会、19日に予算決算委員会が行われ、3月27日に本会議の最終日で閉会する予定です。教育委員会への一般質問は2名からありました。糸魚川伸一議員からは、「避難所の環境について」の中で「体育館のエアコン設置について」、松崎誠議員からは、「中学校部活動の地域移行の現状と今後について」と「子どもの体力低下の現状と今後の取組について」のご質問がありました。

今後の予定です。3月7日に中学校の卒業証書授与式、私は坂本中学校に行く予

定です。11日に教頭会、14日に市指名審査委員会、18日に末松先生とのWEB打合せ。24日に小学校の卒業証書授与式、東小学校に行きます。同日、定例記者会見が予定されています。

■教育長 続いて文化スポーツ部からお願いします。

松井文化スポーツ部長。

■文化スポーツ部長 文化スポーツ部に関わる主な行事や事業について報告します。

2月13日、市文化財保護委員会が開催されました。15日、子どもたちにレクリエーションを中心にスポーツの楽しさ伝える中京学院大学アスリートミーティング（レク・アス エンジョイフェスタ）が開催され、親子で楽しむ機会となりました。18日、苗木城築城500年祭運営委員会が開催されました。19日、全日本極真空手道選手権大会で優勝した闘心館館長の田中克司さんの報告会が開催されました。20日、博物館等協議会が開催され、新年度の事業計画などについて議論がされました。同日、子ども金メダル選定委員会が開催され、田島委員には委員長として会の進行をしていただき、慎重審議の上決定をいただきました。ありがとうございました。

3月1日、第17回島崎藤村記念文芸祭表彰式が開催されました。全国各地1962名、2325点の応募をいただき、短歌など5部門で103名の皆様に表彰させていただきました。昨年度と比較すると、出品数、応募人数を含め約5割増しで、大変嬉しく思っておりますし、特に地元の小学校、中学校の子供さんからの応募が多数寄せられたということで、大変ありがたく思っております。2日、第49回ふくおか芸能祭が常盤座で開催され、今回は9団体10演目がおこなわれました。同日、三山ひろし特別公演、これは市民芸術鑑賞事業の位置付けで文化会館で開催され、満席で大変好評をいただきました。公演内容は、落語、歌謡ショー、紅白でも披露しているけん玉、地元高峰楽器のアコースティックギターを使っの弾き語りを披露いただき、ピーアールにも力添えをいただいたと感じました。また、司会も独りでこなすなど、まさに芸能人を感じ感心して帰ってきました。

今後の予定です。3月6日、国民スポーツ大会冬季大会のスピードスケート2kmリレーで3位に入賞した中京高校3年生、第二中学校出身の今井慎也さんの報告会が開催されます。7日、令和7年10月に当市で開催されるねんりんピックのラージボール卓球交流会及びマンカラふれあいレク大会の開催に向けた、中津川市ねんりんピック運営委員会が開催されます。8日、中津川センターロータリークラブ創立50周年記念式典が挙行されるので出席予定です。10日、市議会一般質問2日目です。14日、社会教育委員の会（兼）公民館運営審議会が開催されます。

18日、市総合体育大会表彰式及び東濃スポーツ大会の総合優勝が決まり、優勝

祝賀会を兼ねて開催されます。東濃スポーツ大会は2年連続優勝になります。19日、落合宿本陣整備計画策定委員会が開催されます。同日、子ども金メダル授与式は、昨年度から前期・後期分をまとめて年1回の開催となっており、授与予定者等は約240人です。24日、苗木城築城500年事業実行委員会が開催されます。第8回中津川リレーマラソン実行委員会も開催されます。以上です。

■教育長 ただいまの報告につきまして、何かご質問等がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 松井部長の報告で、苗木城の500年祭はいつでしょうか。また、運営委員会をやっていますが、一般市民が意見を言う機会はあるのでしょうか。

■教育長 松井文化スポーツ部長。

■文化スポーツ部長 1点目ですが、令和8年が築城500年です。令和7年度は1年前なのでプレイベント的なものを開催、令和8年が本番、令和9年度まで、一過性に終わらせず継続的に3年間重点を置いて実施していく予定です。

2点目ですが、3分科会に分けています。「観光」、苗木地区を中心とする「地域」、「文化伝承」の分科会です。それぞれ団体の代表に入っています。一般市民が、直接ではないですが、委員を通じて意見を集約し、議論の中に反映していただいています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 苗木城は中津川市がかなりアピールしています。一般の方々から「あれがあったらいい」という話をよく聞くので、こういう機会に乗じて一般の方々の意見も聞いていただけると、もっと中津川の苗木城になると思います。

■教育長 松井文化スポーツ部長。

■文化スポーツ部長 先月の教育委員会でも皆さんにご案内しましたが、キャッチフレーズを市民から広く募集していますし、一般市民からのご意見も、今後市としてそういった事業のピーアールをしていく中でいろいろなご意見を頂戴すると思いますので、また運営委員会の中で議論したいと思います。

■教育長 ほかはいかがですか。

ご質問等がないようでございますので、日程第4、議事に入ります。

それでは、日程第1 議第4号「令和7年度県費負担教職員の任免等の内申について」、提案説明をお願いします。

花田教育次長。

[事務局から資料に基づき説明]

■教育長 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 花田教育次長、お疲れさまでした。この時期の大変な事です。持ち味を生かし力が発揮できるように個人をしっかり把握し、家庭にも配慮し、非常勤講師の配置にも熱意をもって配慮してくださったと今説明を伺い、大変だったと思いました。花田先生の構想がうまく回っていくように願っています。

一つ質問ですが、女性校長の割合はどうになりましたか。

■教育長 花田教育次長。

■教育次長 令和7年度は28校中6名、21%です。令和元年度は30校中4名、13%です。かなり増えています。教頭も同様です。

■教育長 ほかはいかがですか。

三尾委員。

■三尾委員 教育次長、お疲れさまでした。中津川市出身の子で他地区へ初任で行き、3年なりの任期を終えて中津川市に戻る、地元が生んだ教職員が何人帰ってくるか分かりますか。

■教育長 花田教育次長。

■教育次長 そういった教職員は少なく、2、3名です。もっと戻って来るという情報はあったのですが、違う市に行った、退職されたという話を聞きました。もっと中津川の職員が増えることを願っています。そういう努力もする必要があると思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 退職されてから再任用になられる方がいます。再任用の校長もお一人みえるということで、すごいことだと思います。説得してくださったのでしょうか。中津川市では再任用は非常に多いと聞いたのですが。

■教育長 花田教育次長。

■教育次長 今年度一旦退職した職員が35名おります。若い人も多かったのですが、その内、全く常勤を辞めたのが22名です。その差の13名は常勤講師等で残っています。

■教育長 少し補足します。今年度末の異動で大きかったのは、若い職員の転職や、起業による退職です。私たちの時代は、一度教職の場に身を置くと一生の仕事という意識が強かったのですが、最近の若い世代は、職業選択の一つであり、もっと自分を生かせる場があると感じれば違う職場に移ることに大きな抵抗感はないようです。

他県出身の職員も中津川市でたくさん勤めてくれています。以前は東北出身者や九州、沖縄は地元で採用がないという時代でした。最近は全国的に教員不足なので、子供が減っている分、必要数は下がっているはずですが、以前に比べて希望する者が少なく、ここ数年来あまり募集がなかった中学校の教科でも、地元で採用枠があることが発生しています。その結果、今まで地元に戻ろうと思っても受ける枠がなかったのですが、それができたため、「首尾よく地元で合格できました」「中津川市ではお世話になりました。今後はふるさとに戻って頑張ります」というような職員が今年は非常に多かったです。

例年、若い職員の普通退職は5名以下ですが、今回はその3倍あります。非常に流動性が高くなっているのが教職という仕事です。手をこまねいてばかりはいられないので、高校生や中学生に対する働きかけや、出身の中学校に出向いて後輩たちに対して学習をサポートするようなことで、人を指導することや教えることの喜びや楽しさを感じてもらえる施策は続けていきたいと思っています。少しずつ実を結んできている部分もあるので、ぜひ継続していきたいと思っています。人材確保に努めます。

ほかはいかがですか。

橋本委員。

■橋本委員 今の話を伺って、教職員は新卒でというイメージが大きいのですが、一般企業で働いた方が教職員を目指すパターンはあるのか、今後想定されるのか、どうですか。

■教育長 大学時代に教職課程を取って教員免許を所持していることが前提条件です。民間企業に一度身を置いた方が教職に魅力を感じて「この仕事をしてみたい」というケースは、かつては多かったのですが、最近は少なく残念です。その逆もあります。流入が少なくて流出が多いという差が開いています。

働き方改革も必要でしょうし、待遇の改善も不可欠だと思います。せっかく入ってきてくれた職員が、良い仕事に就いたという実感がもてるような1年目、2年目を学校の中で作っていくことが何より大事だと思っています。先日の校長会でもそんな話を校長先生方にしました。「君たちのミッションの中で相当上位のところにあるのが、若手職員たちに教員としての魅力を実感してもらうことだよ」と。「自校の若手職員が離職していったら、あなたたちがだめってということだぞ」と。

ほかはいかがでしょうか。

ご意見、ご質問等がございませんので、ご異議がなければ、議第4号については承認ということよろしいでしょうか。

〔 異議なし 〕

■教育長 それでは、ご承認いただきましたので、県教育委員会に内申を提出させていただきます。よろしくお願いします。

続きまして、議第5号「中津川市教員住宅管理規則の一部改正について」、提案説明をお願いします。

伊藤教育企画課長。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■教育長 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 そもそもこんなに家賃が安いのになぜ入る人が少なくなってしまったのか。それから、これを用途廃止にするということは、空き家にするだけで、取り壊しはしないのでしょうか。

■教育長 伊藤教育企画課長。

■教育企画課長 1つ目については、施設が老朽化してあまりお勧めできる建物ではないからです。また、近隣にアパートなどが増えてきているので、そういったきれいなところに入る方が増えていると考えています。

2点目は、市のマスタープラン上、廃止した場合は市長部局に返還し、そちらで現有のまま一旦売り出し、だめなら取り壊して売ることが規定されていますので、その方針に基づき進めます。

■教育長 田島委員。

■田島委員 確かに今きれいなアパートがたくさんできているので、そちらに魅力を感じると思います。大変もったいないと思います。空き家になると管理も大変で、不審者が入ったり火事を起こしたりすることについても人が要ることなので、そこも配慮していただきたいと思います。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 家賃についてです。2つの教員住宅が残っています。馬籠が1万1千円で、加子母が3500円です。どういうところでこの差が出るのでしょうか。

■教育長 伊藤教育企画課長。

■教育企画課長 別表に馬籠6号から加子母105号までを載せていますが、実際はこれを除くと7地区でまだ52棟あります。それぞれ料金があります。

住宅の料金は、合併以前の各町村の価格を引き継いでいます。古い住宅、都会から遠いほど安い価格となっています。一方で、合併後に修繕等を行なったところは料金改定を行い、加子母でも5千円以下のところもあれば1万円のところもあります。

■三尾委員 はい、よく分かりました。

■教育長 ほかはよろしいでしょうか。

橋本委員。

■橋本委員 川上の教員住宅はしばらく空いていました。1年ぐらい前から、住めるなら住みたいという人がいて、総合事務所に何度か問い合わせたそうです。今後は川上保育園のとき同様、資産経理課に移って、そちらとやり取りして借りられるかどうかという話になるのでしょうか。

■教育長 伊藤教育企画課長。

■教育企画課長 川上の住宅に住みたいということはこちらにも相談いただきましたので、その旨を資産経理課に伝えています。

■教育長 ほかはよろしいですか。

ご意見、質問等がございませんので、ご異議がなければ、議第5号については、承認ということでよろしいでしょうか。

〔 異議なし 〕

■教育長 議第5号「中津川市教育住宅管理規則の一部改正について」は、原案どおり承認とします。

続きまして、議第6号「中津川市立小中学校管理規則及び中津川市立高等学校管理規則の一部改正について」、提案説明をお願いします。

花田教育次長。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■教育長 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 夏休みの時間をたくさん取ったりして、変形させて取っていけるようになるので、非常に便利で使いやすいかと思いますが。

観点がちょっと違いますが、働き方改革が提唱されてから長くなります。ものす

ごく力を入れて進めているのはよく分かりました。学校訪問に行くと、必ず県の方が働き方改革についての質問をしておられます。形の上、数字の上ではうまく進んでいると見受けられますが、1日についてはとてもわずかな時間です。そうすると、働いている方々には本当に余暇が生まれているのか、恩恵があるのか、働いている方々の声を聞くことが私たちはほとんどないので、どういう意見があるのか聞いてみたいと思います。

■教育長 花田教育次長。

■教育次長 働き方改革はずいぶん前から行なっています。かつては80時間を超える職員がほとんどだった学校も、現在は平均で45時間以内に抑えているデータは出ています。そのことによって生まれた時間を、子供たちと向き合う時間に使うようにやっていますが、教育の質は落としてはいけないと思っています。働き方改革が始まった当時と今とで業務内容が大幅に減ったわけではないので、無駄な時間は省き、やることはしっかりやる方向で行なっています。申し上げにくいところもありますが、どうしてもひずみというか、数字に出ない部分で働いているところも多少はあるかなと思いつながら、それでも何とか業務時間の削減に努めることを進めています。実際はこれ以上の業務削減が難しいところまで来ていると感じています。

■教育長 よろしかったでしょうか。

田島委員。

■田島委員 先日、表彰式があった実践論文なども、多分学校で書かずに家で自分の時間を使って書いていると思います。自宅へ持って帰ってできる仕事が先生方には多いので、形の上では時短になっていても、結局家に帰って仕事をしていると思います。形だけではなく、意識改革をしながら、皆さんの事例を発表しながら、余暇の使い方など、形を作っていってあげないといけないと思います。意識の問題で休めない人たちもたくさんあると伺いましたので、これからも考えていかないといけないと思います。

■教育長 職員の持ち帰り仕事の量は激減しました。個人情報管理の問題が非常に大きいためです。例えば以前は普通にやっていた、テストの答案を家に持ち帰って採点する職員はいないです。さまざまな情報を学校以外に持ち出すことが今規制されているので、家での仕事は激減しています。ただ、今まで家でやっていた部分を学校の勤務時間内にしっかり入れようとしたときには、それなりの整理が必要なので、学校での勤務の仕方はタイトになっているかもしれません。

最大の改革の一步は、やはり意識改革だと思います。いつまでもダラダラと仕事をするのではなくて、子供のためになることは精一杯する強い思いは持ちつつ、学校が担うべき「組織としての教育力」やミッションをしっかり果たしていくために

は、この業界に入ってくれる後進が憧れる職場じゃないとだめです。そのためにも、個人に大きな負荷、負担が生じない職場の実現に向けて、改善しようという意識は職員の中に醸成されつつあると思っています。

ほかはいかがでしょうか。

三尾委員。

■三尾委員 感想です。私も、この働き方改革が教員のなり手に繋がるような因果関係ができるように、「こういう職場だから先生になろう」というところに繋がることを願っていますのでよろしくお願いします。

■教育長 付け加えます。誰がスリム化を断行できるかです。仕事の内容と優先順位が分からない人にはスリム化はできません。一定の期間、特に就職して何年間はしっかり働いてもらう必要があると思います。仕事の内容、方法が身に着かないと間違った選択になってしまう可能性があります。学校の管理職の皆さんには、「若手の職員にはしっかり指導しないといけない。そして経験する中で身に付けていただき、身に着けた上でスリム化できるように。ましてや、そのことが後進にきちんと引き継がれるように指導できないとだめだ」ということは常々お話ししています。

ほかはいかがでしょうか。

ご意見、質問等がございませんので、ご異議がなければ、議第6号については、承認ということでよろしいでしょうか。

〔 異議なし 〕

■教育長 議第6号「中津川市立小中学校管理規則及び中津川市立高等学校管理規則の一部改正について」は、原案どおり承認とします。

続きまして、議第7号「令和7年度中津川市教育委員会の方針と重点について」、提案説明をお願いします。

松原教育研修所長

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

続いて、文化スポーツから提案説明をお願いします。

松井文化スポーツ部長

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■教育長 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 文化振興課のところで、藤村記念文芸祭の出品、応募が5割増しということですが、これはもしかしたら学校の力ではないですか。文化振興課から各学校に俳句や短歌を応募するようアプローチをされたか教えてください。

■教育長 小池文化振興課長。

■文化振興課長 こちらの文芸祭は実行委員会形式で、そちらに俳句作家協会の方たちなどが入っています。その方が希望する学校へ行って、出前授業の形で俳句の作り方の説明などをするという活動をしています。それを受けた学校からの応募が増えています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 俳句を子どもたちに一生懸命教えている先生を私はよく存じています。俳句が大好きで広めていきたいという気持ちがあるので、学校へ行って教えたりしています。それが子供たちに通じて、俳句だけではないと思いますが、応募してくださったということですよね。

文化振興課で何かをやるときに、生徒、児童たちにアプローチをかけることがすごく大事だと思うんです。文化振興課は文化振興課、学校は学校でやっているということではなく、同じ中津川市の事業なので、子供たちに協力してもらうことが、子供たちも成長し、新しい分野が開発できていくことです。これはコミュニティースクールにも通じるのかもしれませんが、文化振興課が園児、生徒、児童が参加できるものをイベントとしてやるときには、学校へアプローチすることが非常に大事なことだと思います。学校の方ではいかがですか。

■教育長 先に文化スポーツの立場からお願いします。

小池文化振興課長。

■文化振興課長 学校へ直接行くことはなかなかハードルが高いところがあります。いろいろなイベントのときに気軽に参加できる状況といえ、例えば六斎市のときにブースを広げて、今年度ですと熊谷守一の絵を基に自分で絵を描いて缶バッジを作るものには100人ぐらい来てくれました。気軽に何かできる場を作ると同時に、学校へのアピールを繋げていけるといいと常々感じています。教育委員会と連携しながら進めてまいりたいと思っています。

■教育長 学校教育の立場からお願いします。

花田教育次長。

■教育次長 学校にはたくさん作品募集の案内をいただきますが、今の話のように、

実際専門の人が来て教えていただけることは意外に少ないです。私も教壇に立っていましたし、国語で俳句をどこかに応募したこともあります。私のような者が教えるよりも、造詣の深い方が教えてくれる方が作品の出来栄も良くなります。そういった応募をすることが子供たちの作品を作る上でのモチベーションに大きく関わってくることは経験しています。非常に有効な方法だと思いますので、専門的な知識のある方にご指導いただけるのは、学校にとっては大変有り難い機会だと思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 俳句、短歌に関わらず、小池課長もニュアンス的におっしゃった学校にアピールするのは敷居が高いというのは、私もずっと感じています。5、6年前、中津川が当番で文楽の大会があったときも、子供たちに来てほしいと文化振興課の職員は一生懸命やっていましたが、なかなか子供たちにアプローチできないと聞いたことがあります。そういう雰囲気大きいと思います。同じ中津川市の事業なのに、教育委員会から学校にアプローチするのに二の足を踏むのを、打開していきたいと思っています。

■教育長 ご意見ありがとうございます。ほかはよろしいですか。

松井文化スポーツ部長。

■文化スポーツ部長 市の行事でも、文化スポーツ部だけではなくいろいろな分野の仕事をしています。消防では火災予防のポスターを描いてくれとか。本当に学校にいっぱい行くんです。学校も働き方改革や、決められた授業をやらないといけない中で、正直、ハードルが高いというより、少し遠慮させてもらっているというのがあります。確かに中津川市の偉人に関する行事ではありますが、その辺は学校と教育委員会と調整を図る中で、無理のない範囲でできるだけ協力いただける形を今後も進めていきたいと思っています。

■教育長 ほかはよろしいですか。

橋本委員。

■橋本委員 小学校、中学校の重点指導内容を見ると、4月と10月に、できたかどうか自分でチェックする工夫があります。これはほとんどが、職員が自分で意識してやることで、下の段は校長先生や教頭先生が意識することだと思いますが、これを実行するために何か会があって共有する機会などがあるのか、配って読んでというだけなのか、どのようにされていますか。

■教育長 松原教育研修所長。

■教育研修所長 こちらのチェック項目は今年度から取り入れて各学校に実施してもらっています。項目はたくさんありますが、各先生が自分の分掌に関わるところ

を、例えば校長であれば一番下のところを、年2回回答していただきます。最初にこれを提案した4月の校長会で、年度初めの職員会や年度の真ん中の10月あたりで時間を取ってやってもらうよう学校にはお願いしています。

■教育長　ほかはいかがですか。

山本委員。

■山本委員　学力アッププログラムのところで、生活習慣を定期的に見直し、学習が習慣付いているか、生活習慣がきちんとできているかをチェックしていくということで、非常に有意義な事業だと思います。ただ、自分の子供を見ていても、その週の後半位に出してきて、「ここどうしよう？」と言うので怒ったりするので、親がもう少し関わるのがより効果的になると思います。

それと、やった後そのままになってしまって、また忘れた頃にやってくるというようなこともあるので、具体的にそれがどう改善に繋がっているかなどを自分でチェックできる仕組みがあるとさらに良いと思います。具体的にどうするかは非常に難しいとは思いますが。非常に良い教育活動なので、何とかこれをさらに実効性あるものにしていただきたいと思います。

■教育長　松原教育研修所長。

■教育研修所長　平成23年度からスタートしたこの学力アッププログラムは、まさにご指摘のように、シートがあって年3回提出するという「点」の取組になってしまふところを、いかに日常的な取組にしていくのか、自分ごととしていくのかといったところが、非常に大きな課題となっていると思っています。今年度特に、各学校の取組を紹介しながらも、日常に、「線」に繋げていくところを大事にしていきたいと思っています。そのために、やはり保護者の協力が必要不可欠である部分と、中学校2、3年生になって親に言われないとやれないということではいけないと思うので、自分ごととして自分で動けるというところを出口のキーワードとして取組を進めていきたいと考えています。

■教育長　長年やってきて欠けていたのは出口戦略です。「僕、この取組、してもらわなくて大丈夫です。自分でやれます」と、本人が卒業宣言できるような、そのことを親も「その通りだね。もうこれを年3回やる必要は、あなたはないね」と確認できるような出口戦略が今までできていなかったもので、ぜひそこは新しい取組としてやっていきたいと思っています。逆の言い方をすれば、「え、あなた中2になるのにまだやってるの？」と周りが言うような若干厳しい環境があってもいいと思っています。ぜひ工夫したいと考えています。

田島委員。

■田島委員　教育研修所も文化スポーツ部も、毎年毎年見やすく理解しやすい紙面

になっています。特に文化スポーツ部は、4、5年前は文章だけでしたので。それがこういう形で色分けや区分けをして本当に見やすくなっていてありがたく思います。また、いつだったか私から、「1年間出しっぱなしではないよね、園児たちも成長は早いし社会も早く変わっているので、半年で見直して」と話したら、半年で見直しができるようなチェック態勢もしっかり作ってくださっています。熱い思いで臨んでいらっしゃると思います。

これは、教育委員会は全教員にこの黄色の資料を配布しておられるということですよ。この裏には週案簿等を貼り付ける部分まで作っていただいています。教員がこれを見ながら、しっかりチェックしながらやってくれていると見受けます。花田先生や松原先生が現役のとき、やはりこれがあったと思います。使っていたらいいんじゃないか。

■教育長 花田教育次長。

■教育次長 週案簿にはしっかり貼っていました。それをときどき見ながら、思い返して振り返りながらやっていました。

■教育長 松原教育研修所長。

■教育研修所長 私も毎年配られて、貼っているんですが、なかなかこれを毎日見ることは難しく、自分が得意としている分野、教科の部分や、今何が大事なのかなということをとくに確認していました。

■教育長 田島委員。

■田島委員 資料の特色ある教育活動の「絆プラン」で、「読書記録を残し、読書の幅を広げる取組」が十何年来うたってあります。ところが、子供たちもだんだん、要領のいい子はできてきて、数をこなせばいい、冊数を稼げばいいということになっていることもあります。このあたりで質の向上的なことを考え始めてはどうでしょうか。

■教育長 松原教育研修所長。

■教育研修所長 私の前任校でも、図書館フェスティバルがあったりすると、子供たちは図書館に駆け込んでたくさん借りて、10分ぐらいして「もう読んだよ」と言うようなことがあります。ご指摘いただいたように、ぜひそこは大事にしていきたいと考えています。今それを幼児教育課の図書館担当の田中が取り組んでいます。小学校、中学校については読書の幅として、物語が好きだから常に物語ではなく、物語以外のジャンルにも足を運べるような働きかけをしてもらうことだったり、先週見た坂下小学校の図書館は初級、中級、上級の本とレベル別になっていて、今自分が初級で満足していたら中級にチャレンジしてみようという取組がされていたりします。委員の指摘のところについては来年度大事にしていきたいと思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 もう一つ図書に関して、読書活動の中に「専門知識を持つ職員による選書や配架等の巡回支援」とあります。これはレファレンスのことですよね。専門知識を持つ方々が本を選んでくれる、例えば「幕末について知りたい」と言うとも幕末についての本をたくさん出して導いてくれるという技術があるんですよね。図書館員の一番の喜びはレファレンスができるということらしいです。多くの方はレファレンスをしてもらえることをご存じないと思います。図書館ではいろいろなイベントをして本を読んでもらえるように進めていらっしゃるんですが、レファレンスをやってくれる、自分の好きな本とは違う分野の本も読ませてくれるといったことも、図書館の楽しみ方の一つだと思います。なので、できるだけアピールしていただけると、新しい分野の本も楽しめるということになると思いますので、力を入れていただきたいと思います。

■教育長 草野図書館長。

■図書館長 今の図書館を作った際に、司書力を発揮できるように単純労務は自動化、自動貸出、自動返却にして、司書の手を開けてレファレンスサービスを充実していこうという方針です。まだピーアールが足りていない部分がありますが、いろいろなことを聞いてもらえる環境を作っていきたいと思っていますし、棚のコーナー、さまざまな企画という形で、見やすいように心掛けていきたいと思っています。

■教育長 ほかはいかがでしょうか。

ご意見、質問等がございませんので、ご異議がなければ、議第7号については、承認ということでよろしいでしょうか。

〔 異議なし 〕

■教育長 議第7号「令和7年度中津川市教育委員会の方針と重点について」は、原案どおり承認とします。

これをもちまして定例会での審議はすべて終了しました。会議の冒頭でお諮りしました通りここで暫時休憩とします。休憩中に行います協議会の終了後に、秘密会として再開します。

〔 暫時休憩 〕

■教育長 それでは、秘密会として再開します。

〔 以下、秘密会のため削除 〕

■これにて、秘密会を解きます。

これをもちまして、本日の議事はすべて終了しました。

委員の皆さん、ありがとうございました。

それでは、事務局から次回の開催日程について、報告をお願いします。

森事務局次長

〔 事務局から次回日程の報告 〕

■教育長 次回は、令和7年3月24日、月曜日、13時30分から、にぎわいプラザ4－1会議室にて、臨時会を開催いたします。

以上で、令和7年第3回中津川市教育委員会を終了といたします。

お疲れ様でした

〔 閉 会 （午後4時50分） 〕